

6-5 九州中・北部の地震活動（1993年11月～1994年4月）

Seismic Activity in the Middle and the Northern Kyushu District (November 1993–April 1994)

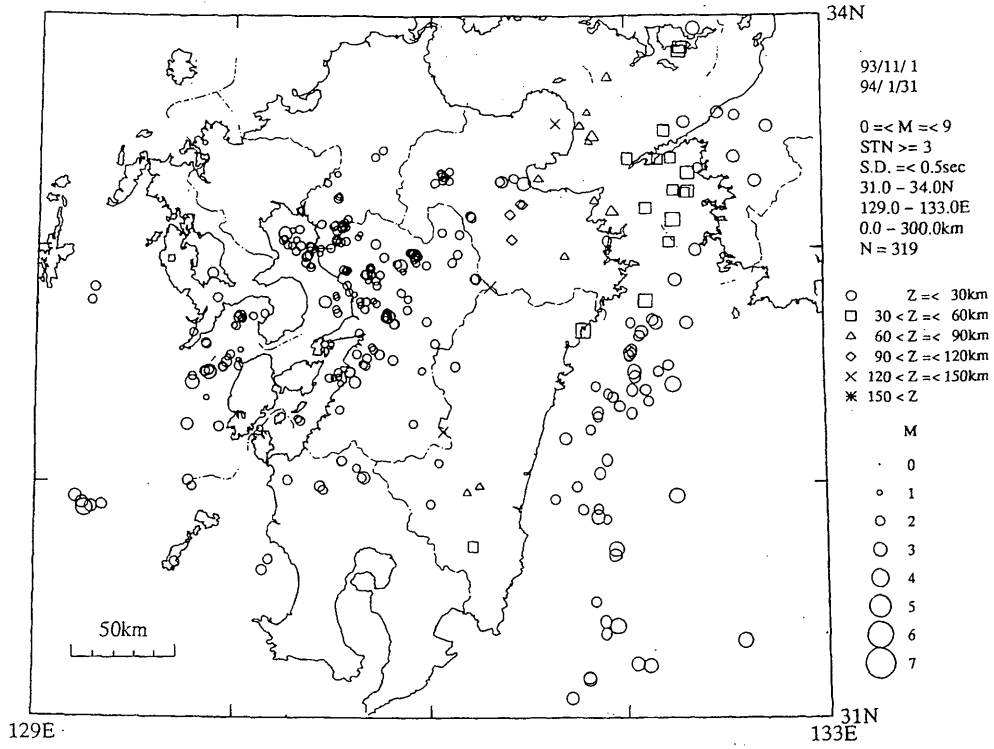
九州大学理学部 島原地震火山観測所
Faculty of Science, Kyushu University

第1図に1993年11月～1994年1月、第2図に1994年2月～4月の震央分布を示す。第3図に5個の地震について得られた発震機構解を示す。

この期間、九州中北部での地震活動レベルは比較的低調であるが、M3を越える地震が、従来からの地震の多発域である有明海、橘湾～天草灘、熊本県中部などで発生したのに加え、福岡県中部でも4月11日、M3.0の地震が発生した。また、1994年2月13日には鹿児島県北部でM5.7の地震が発生、余震活動が続いている。

長崎県、雲仙・普賢岳の噴火活動は、1990年11月17日の噴火開始より丸3年を経過し、溶岩ドームの成長にともなう山頂部の地震活動も活発に続いている。とくに1993年12月～1994年1月にかけて、溶岩ドーム付近を震源とする最大M2.9に達する顕著な地震活動が発生した。第4図に溶岩ドーム付近の地震のM-T図、第5図に1993年8月と比較した同年12月の震源分布を示す。

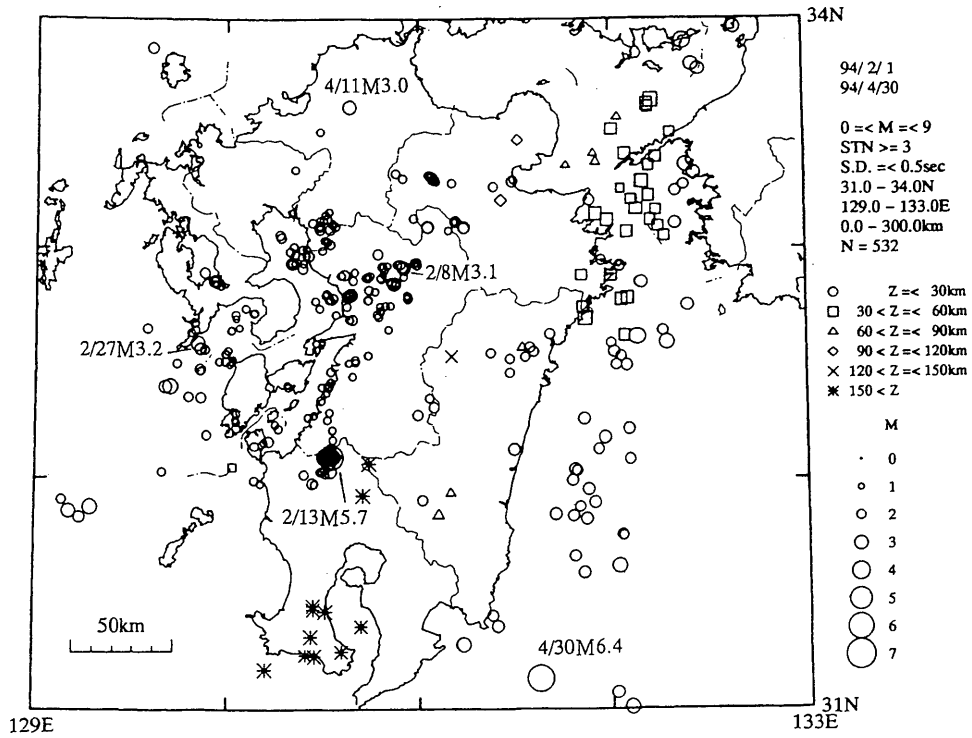
EPICENTER DISTRIBUTION



第1図 震央分布 (1993年11月~1994年1月)

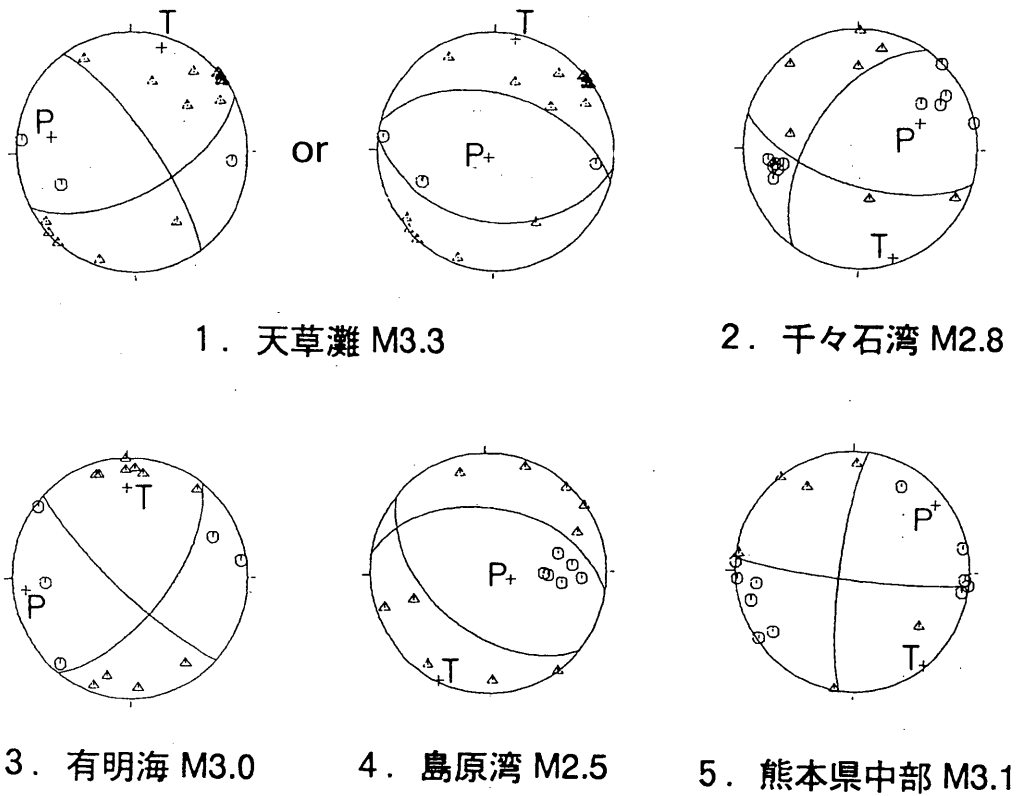
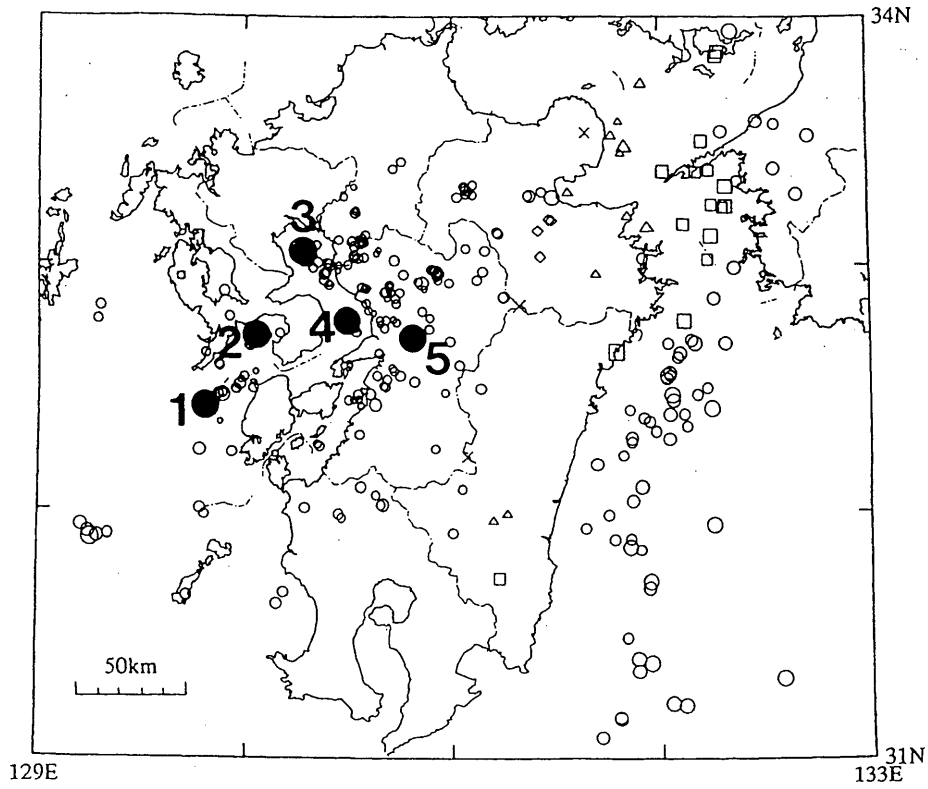
Fig.1 Epicenter distribution (November 1993—January 1994).

EPICENTER DISTRIBUTION



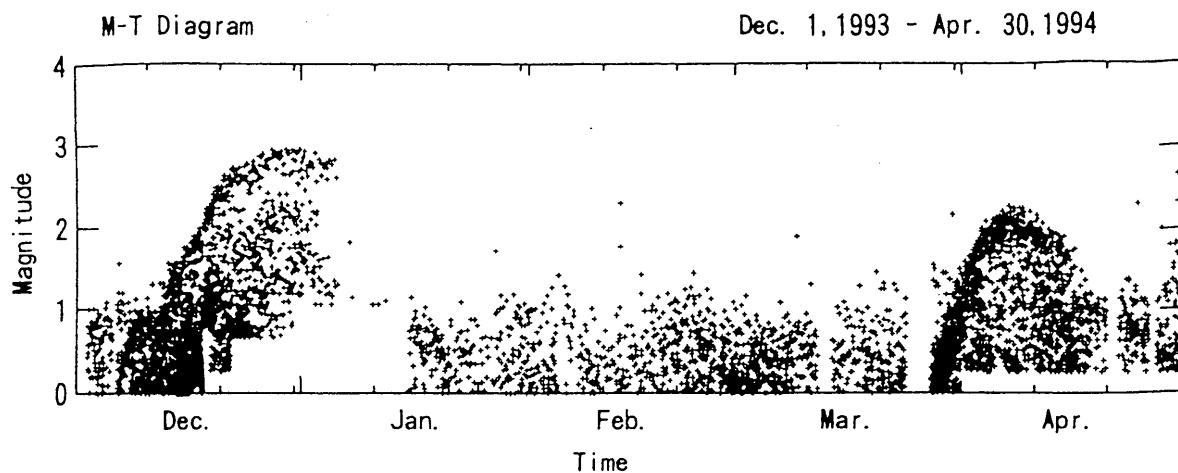
第2図 震央分布 (1994年2月~4月)

Fig.2 Epicenter distribution (February—April 1994).



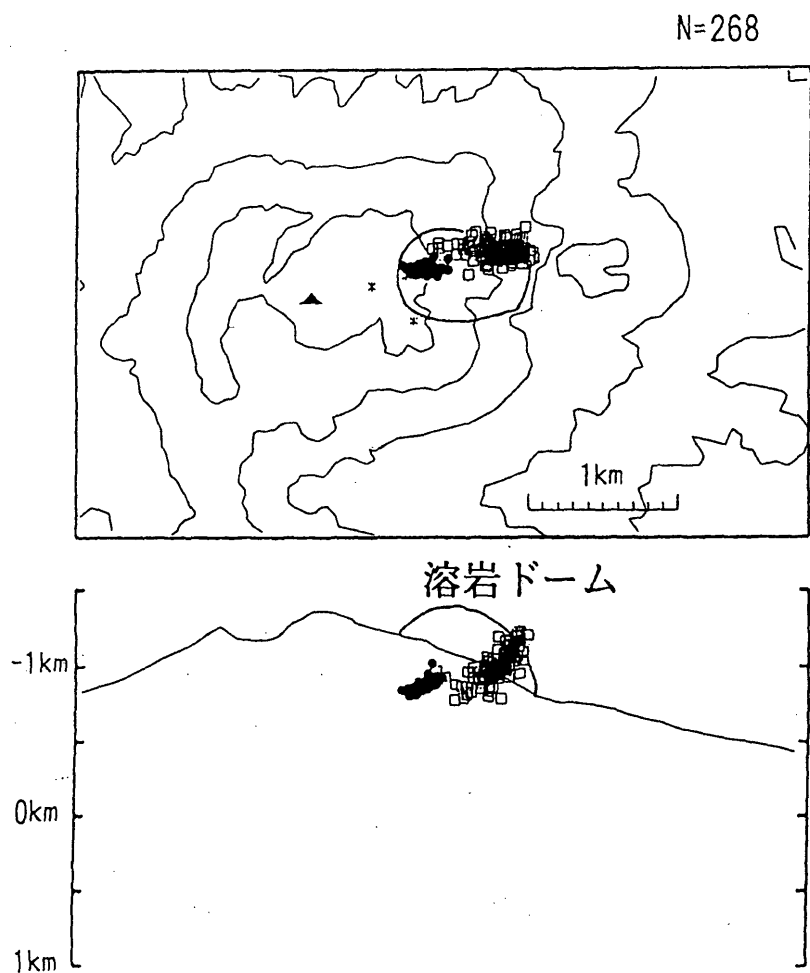
第3図 発震機構 (下半球等積投影, 三角: 押し, 丸: 引き)

Fig.3 Focal mechanism solutions. Equal area projection on the lower hemisphere. Triangle: up, circle: down.



第4図 普賢岳山頂部地震のM-T図 (1993年12月~1994年4月)

Fig.4 Magnitude-time diagram of the earthquakes in the summit area of Mt. Fugen.



第5図 普賢岳山頂部地震の震源分布 (□: 1993年8月, ●: 1993年12月)

Fig.5 Hypocenter distribution in the summit area of Mt. Fugen.
(□: August 1993, ●: December 1993).